

# 140字の読書界

地歴科有馬おすすめの「連休中、雪かきの合間に読んだ」本

- 1 書名：ビジネスの未来 [藤高蔵書 ×]  
著者：山口 周 (やまぐち しゅう)  
発行：プレジデント社

「独立研究者」という肩書きで、経営におけるアートとサイエンスの関係についての論考に定評のある著者。GDP指標を盲信して経済成長を求め続ける現代資本主義の限界を指摘し、成熟した「真に豊かで生きるに値する世界」を目指すべきと説く。必要な知識・理念を述べた上で、行動を促してくれる本。



- 2 書名：ゲンロン戦記 [藤高蔵書 ×]  
著者：東 浩紀 (あずま ひろき)  
発行：中公新書ラクレ

著者の東氏は、「批評家・哲学者」という肩書きにおさまらない活動を続けている。本書の副題は“「知の観客」をつくる”で、2010年に株式会社ゲンロンを創業し、本・講演・動画配信などで自らの思想を世に問い続けてきた著者が、10年間の顛末を語り下ろした本。時代を切り拓くとは、こういうことか。



- 3 書名：空き家幸福論 [藤高蔵書 ×]  
著者：藤木哲也 (ふじき てつや)  
発行：日経BP

世の中の不動産の多くは、不動産業者を介して流通する。しかし、空き家の多くは価格が低く、不動産業者にしてみれば手間がかかるが手数料は安い。結果として流通から取り残され、空き家は増え続ける。だったら売主と買主が直接売買すればいい、と「家いちば」というサイトを立ち上げた著者の起業本。



- 4 書名：当確師 [藤高蔵書 ×]  
著者：真山 仁 (まやま じん)  
発行：中公文庫

政令指定都市の市長選を舞台にした小説。主人公の職業は選挙コンサルタントで、当選確率99%を誇る。「告示日前に勝敗はつく」という主人公が、陰に陽に動き回る姿を通じて、選挙の仕組みや問題点について学べるのも面白い。選挙関連の小説としては、原田マハの『本日は、お日柄もよく』もおすすめ。

